# ぶらり日光 ブランド探訪 vol.9

くわしくは 総合政策課　日光ブランド戦略室 ☎(21)5131

## 今なお残る、500年以上続く日本古来の伝統的風習

### 今月の日光ブランドは「川俣の元服式」

毎年1月下旬に開催する川俣の元服式。起源は室町時代にまでさかのぼります。川俣地区の愛宕神社に、永正元(1504)年6月の小松五良衛門の奉納棟札が残っていることと、武家社会以外の庶民に元服の儀礼が広まったのが室町時代であったことから、以後500年続く伝統行事といわれています。

男子が数え年20歳、成人に達すると、血縁関係の薄くなっている親族の中から成人後の後見人を選び、親分、子分の関係を結びます。かつては、この時に親分から新しい名が与えられたので名付けともいいます。集会所に地区内の人が集まり、若衆当番頭の司会進行で厳粛に行われる古来からの儀式です。儀式の座には、紋付羽織袴姿に威儀を正した新成人者である子分が、正装した後見人親分夫婦の前に座ります。親子固めの杯を交わし、続いて血肉を分けた仲になるという縁起から、生魚を親分子分で食べ分けます。この間、長老たちにより「高砂」「四海波」が朗々と謡われます。儀式の後には、川俣の伝統芸能で県の重要無形文化財でもある「三番叟」「恵比寿大黒舞」が披露されます。

川俣の元服式は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。これは、日本の基盤的な生活文化の特色を示す典型的な風習であり、全国でも希少価値が高いものです。

川俣地区は若衆制度により、山之神祭(二十日祭)や天王祭、八月例大祭の中で、獅子舞や三番叟、恵比寿大黒舞などの民俗芸能の伝承が行われてきました。日本古来の貴重な風習を次世代につなげていくため、一人でも多くの方に知ってもらうことが重要です。

厳かな雰囲気の川俣の元服式

# 進め！地域おこし協力隊 9

くわしくは 地域振興課　地域振興係 ☎(21)5147

皆さんこんにちは、三依地域おこし協力隊の蟹江です。今回は三依での協力隊活動を紹介します。

現在私は、三依地区での獣害対策活動に力を入れています。獣害とは、サルやシカ、イノシシなどの動物による田や畑などへの被害のことです。三依は自然豊かなところで、その他にもクマやキツネ、テン、ハクビシンなどの野生動物がいる地域であり、獣による畑への被害が多いのが実情です。

地区に住む方の中には、自分の家の分はもちろん、親戚や近所に分ける野菜作りが生きがいや楽しみになっている方も多くいます。しかし、その趣味が動物によって壊されてしまっている状態になっています。

そこで私は現在、獣害対策地域リーダー育成研修会に参加して活動を行っています。ワイヤーメッシュ柵・電気柵の設置の方法や動物の行動習性を勉強して、集落内でサルを見かけたら花火を使って対岸や山の上まで追い払いをしています。

また、耕作放棄地の草刈りも行っています。荒れ放題に生えているススキやカヤなどの植物は、野生動物の隠れ場所になり、被害が発生する原因になってしまいます。このため、先日、三依支所から中三依温泉駅までの斜面の見通しを良くすることを目的に、野岩鉄道と協力して草刈り作業を行いました。

そして獣害対策と平行して、サルに入られにくいといわれている柵の実証実験を行っています。ちょうど、もう一人の協力隊員が畑で作物を育てているので、その場所に柵を設置しました。これらの対策で野生動物被害を抑えて作物を作り、収穫の楽しみを再び地域の人に感じてもらえるよう、今後も日々奮闘していきたいと思います。

メッシュ柵設置作業研修会




# 小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3　TEL：50-1200
ホームページ　http://www.khmoan.jp/

## 市民割引券

（1枚につき、5名様まで有効）
開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：毎週月曜日(祝日などの場合は翌日)

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

切り取ってご利用ください


## 年始特別開館＜2015 た・の・し・い・お・正・月＞

美術館は、1月1日(木・祝)～3日(土)に特別開館します。この3日間は、エントランスホールにおいて、双六やかるた、百人一首をはじめ、凧揚げ、羽根つき、独楽まわしなどの日本の伝統的な正月の遊びを無料で体験することができます。

また、この期間の展覧会への来場者を対象に、温かいコーヒーとフレッシュなイチゴをサービスします。

さらに、館内の喫茶室「カフェ アン・レーヴ」では、イチゴを使用した特別メニューを用意して、皆さんのご来館をお待ちしています。

お正月のひととき、美術館でゆっくりとした時間をお過ごしください。

❖展覧会「selection 2015　初春 - 清水比庵＋小杉放菴」
**会　期**：1月1日(木・祝)～2月15日(日)
**入館料**：一般720(300)円、大学生510(200)円、高校生以下は無料
※(　)内は市民割引券を利用した際の料金です。

※美術館は、平成26年12月31日(水)までと1月5日(月)～7日(水)は年末年始休館になります。

# 連載 世界遺産 日光の社寺

教育委員会事務局　文化財課
日光市中央町15-4　☎(30)-86-

### ◆神は仮の姿

仏教は、その布教を通じてさまざまな技術を発達させました。仏の姿や教えを表すための彫刻や絵画などの美術工芸、寺院の建築技術、よりよく生きるための医学など、日本は遣隋使や遣唐使を派遣し、広範囲、高水準におよぶ当時の最新技術の摂取に励みました。

圧倒的な仏教の力に魅せられた当時の日本は、仏教で国を治めていこうと考えます。しかし旧来から信仰していた神を捨てようとはせず、「八百万の神々は、実はさまざまな仏が仮の姿としてこの世に現れたものである」として一体のものとして捉えます。これを本地垂迹といい、以後、明治に至るまで日本人の基本的な宗教観として続いて行きます。

### ◆鎮護国家と勝道上人

日光開山の祖である勝道上人は天平7(735)年に誕生します。父は芳賀郡の役人と言われています。27歳のとき、下野薬師寺で僧侶となり、31歳で男体開山を志し山頂を目指します。上人が山内の手前で大谷川の急流に阻まれたとき、神仏に祈りを捧げると深沙大王が現れ、大王が投げた蛇が橋となり無事に渡ることができたという「山管蛇橋」(現在の神橋)の伝説が残されています。

山内に至った勝道上人は、ここを拠点に翌年、最初の登頂に出発しますが失敗。三度目の挑戦で登頂に成功したのは天応2(782)年、勝道上人48歳の時でした。

これが勝道上人日光開山の概略ですが、男体山は登頂に15年も掛かるような険しい山なのでしょうか、また、勝道上人はその間どのように生計を立てていたのでしょうか。キーワードは「鎮護国家」です。

勝道上人の銅像(山内)